

学校教育目標	自ら輝け 夢をつかめ
目指す学校像	わかる授業 明るい学級 挨拶と歌声響く学校 ～生徒の主体性や向上心を育み、保護者・地域の信頼に応える～
重点目標	1 主体的に学習に取り組む態度の育成を図り、学力向上を推進する。 2 生徒たちにとって学校が居心地の良い場となるように生徒指導・教育相談を推進する。 3 地域で育てたい生徒像の具現化を推進する。 4 施設の安全管理を推進するなど、危機管理に対する意識を向上させる。 5 協力体制を構築し、やりがいを感じる働きやすい職場環境を構築する。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和8年2月4日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果は、前年度と比較して全般的に底上げされたものの課題が見られるのが現状である。 ○授業に落ち着いた態度で取り組んでいるが、積極的に意見を述べることや主体的に学習に取り組むことに課題があるのが現状である。 (課題) ○令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果分析から数学においては「数と式」の分野、国語においては「読む力」の内容が課題である。 ○学習に主体的に取り組む態度の育成が課題である	・数学の学習活動の継続的取組 ・「読む力」を育てる活動の取組	①生徒が苦手としている「数と式」分野の問題を重点的に行うなど工夫する。 ②問題を読み解く力の向上を図るためにも学習の基盤となる国語教育(特に読むこと)の充実を図る。	①数学の「数と式」分野の結果は向上したか。 ②国語の「読む力」の結果は向上したか。	①今年度の全国学力・学習状況調査の「数と式」分野の正答率は、県平均・全国平均を上回った。 ②国語においても、正しい語句の漢字や意味を問われる問題の正答率が、市平均・全国平均を共に上回った。	A	全国学力・学習状況調査の結果や市の学力テスト等の結果から苦手となる分野について分析を行う。苦手となる分野の力を向上させるための具体的な方策を検討して実践する。特に国語力向上については全校で取り組む。	・学習に主体的に取り組むには、子どもの興味関心に基づいた具体的な目標設定をはかり、自己のキャリアを結びつけた意義の理解と振り返りによる学習の調整が重要である。・地域の様々な資料や社会の情報などを読み解く機会などをつくることなどで、地域やPTAとして協力できることがあるかもしれません。 ・学齢期において、様々な学習を通して、主体的に学ぶことの大切さを学校全体で取り組んでいることは高く評価できます。
		・個別最適な学習の充実。 ・主体的に学習に取り組む態度の育成	①数学の授業を基礎コースと発展コースに分け、習熟度に合わせた学習を行う。 ②「生徒が考え、発表する場面」を意図的に設定し、学習に主体的に取り組む態度を育成する。効果がある取組について校内で研究を行う。	①数学の問題の正答率が年間を通して向上しているか。 ②生徒アンケート「自らの頑張りでわかるようになった」において十分と回答をした割合が前年度より増加したか。	①基本的な問題の正答率が向上した。また、習熟度別の授業では、基礎コースから発展コースへ変更を希望する生徒もおり、前年度以上に主体的に取り組む生徒の増加が見られた。 ②肯定的な回答の割合は90.6%で前年度とほぼ同じ数値であった。			
2	(現状) ○学校評価生徒アンケート「学校での生活は毎日楽しく充実していますか」の問いに対して肯定的な意見が95%を超えている。 ○落ち着いた生活を送っているが、自分の考えや意見を発表することや行動することが苦手と感じている生徒が多い。 (課題) ○自己有用感を高めることが課題である。 ○何事に対しても受け身ではなく主体的に取り組む姿勢を身に付けることが課題である。	・生徒指導・教育相談体制の充実	①常に生徒の些細な変化について注視し、迅速に対応する。 ②報告・連絡・相談・見届けを徹底し、全職員で組織的に対応する。 ③Solaルームの効果的な運用について研究する。	①生徒アンケート「困ったときなど、必要に応じて先生に相談できるか」において肯定的な回答が前年度より増加したか。 ②組織的な生徒指導・教育相談が機能しているか。	①肯定的な回答の割合は前年度とほぼ同じ数値であった。生徒が相談しやすい雰囲気づくりを意識し、迅速かつ丁寧な対応を心掛け実践した。 ②報告・連絡・相談・見届けを徹底し、組織での対応を行っている。 ③Solaルームの環境整備や充実に努めた。	B	引き続き相談体制を充実させ、生徒一人ひとりを大切に生徒指導や教育相談を実施する。悩みや相談等に対し、誠実かつ迅速に対応するとともに、学校生活を楽しく充実させるために、よりよい雰囲気醸成する。Sola ルーム、相談室及び相談活動の広報活動を推進する。	・「学校での生活は毎日楽しく充実している」と答えた生徒が95%を超えているということは素晴らしいです。今後は生徒の発信力を高め、自己肯定感を育む支援のさらなる充実に期待します。 ・地域が学校と一体となって生徒を育てていくよう、関係機関も尽力して参ります。
		・エージェンシーの育成	①生徒会活動の充実を図る(中高連携を軸に)。 ②生徒たちによるルールメイキングを通して、自治的活動の充実を図る。	①生徒が発表する場が増えたか。 ②生徒アンケート「自分の考えを発表することができますか」において肯定的な回答をした割合の向上	①生徒が主体的に発表する場の設定等、前年度より意図的に設定した。 ②前年度と比較して肯定的な回答の割合が11.3%増加した。			
3	(現状) ○植水小学校と合同で学校運営協議会を開催し、学校と地域の協働体制について熟考を重ねた。 ○地域で育てたい生徒像について熟議を行い、地域と連携し、取組を実施していく。 (課題) ○具体的な行動目標を設定し、地域を挙げて健全育成に取り組む必要がある。 ○学校の取組や地域との連携などを、保護者等へ周知・理解をさらに広めていく必要がある。	・地域で育てたい生徒像の具現化に向けた取組の推進	①学校運営協議会の熟議で行動目標を立て、推進するための計画を立案し、地域を挙げて実行する。	①学校運営協議会の熟議で、地域で育てたい生徒像を提案することができたか。 ②推進を図る計画を立案し、実行に移すことができたか。	①地域で育てたい生徒像について提案することができた。 ②あいさつを推進する取組について立案し、共通理解を図ると共にスローガンを決定することができた。	B	次年度は、決定したスローガンを基に、あいさつを推進する取組を広げ浸透させていくことが課題である。また、運営協議会への生徒の参加について研究を進め、実践に取り組む。	・『あいさつ運動』は小学校・中学校・高等学校・幼稚園・地域を含めた健全育成の(案)となると思います。今後は、行動目標を家庭や地域へ広く浸透させる「実践」のフェーズへ進むことを期待します。・挨拶から始まり、学校、地域の様々な催しにも積極的に参加を促し、全体で協力していく。
		・学校や運営協議会の活動についての広報	①学校公開など、学校の活動を地域へ公開する機会を増やし、教育活動を保護者・地域と情報共有する。 学校だよりやホームページ等で活動の様子を紹介し、情報を広く発信する。	①学校評価保護者アンケート「たより等により生徒の学習・生活の様子をわかりやすく知らせている」において肯定的な意見が前年度より増加したか。	①肯定的な回答の割合は前年度とほぼ同じ割合であった。「よくわからない」と回答した数を前年度より減らすことができた。			
4	(現状) ○生徒が安全に学校生活を送ることができる環境づくりを進めている。 ○危機管理についての意識を高めるために他校で発生した事案についても確認しながら予防に取り組んでいる。 (課題) ○教職員の人数が少ないので、分担して効率よく校舎内外の状況を確認する必要がある。 ○危機管理への意識を高く持ち迅速に対応できるよう教職員に計画的に実施する必要がある。	・施設の安全管理	①校舎内外の状況を確認し、即時対応、予防推進の工夫を実施する。 ②安全点検を確実に確認し、教頭、安全主任、事務と優先順位を確認し、効率的な修繕・整備を進める。	①学校評価保護者アンケート「安全管理や環境整備を行っている」において肯定的な割合を維持する。	①肯定的な回答の割合は前年度とほぼ同じ割合であった。 ②日常的な安全点検や月ごとの点検等を行い、即時対応可能な場所は修繕を行い、長期的なものや予算がかかるものは修繕の要望を継続して依頼している。	B	老朽化等により、修繕箇所の増加等が課題であるが、引き続き要望を続けるとともに、予防や即時対応なものは迅速に対応し、効率的な修繕・整備を実施していく。	・施設の安全管理や、危機管理に取り組む日々の積み重ねの姿勢はとても参考になります。 ・限られた人員での環境維持、高く評価いたします。引き続き組織的な連携を図り、予見的な危機管理の徹底をお願いします。
		・危機管理能力を高める研修の実施	①心肺蘇生法等の研修を実施する。 ②アレルギー等緊急時の対応についての研修を実施する。 ③不審者等その他、緊急な事案が発生した際の対応について研修を実施する。	①管理職や養護教諭、安全主任を中心に、研修を計画的に実施することができたか。また、研修内容を理解することができたか。	①予定している研修の他に、諸会議や集会等で、危機意識を高めるための指示伝達を行った。気象状況や物品・アレルギー対応等、ヒヤリハット等初期段階で対応する意識をもって望んでいる。			
5	(現状) ○服務についての意識は比較的高い。また、業務に協力して取り組む環境が比較的整っている。 ○ICTを活用した業務改善策の提案が増えてきている。 (課題) ○計画的に服務研修を行い、協力体制の強化を図る必要がある。 ○小規模校における校務分掌について、業務改善が図れるようさらに見直しをする必要がある。	・教員としての自覚を持った行動と協力体制の構築	①服務研修を学期に1回以上実施する。 ②協力体制の強化と若手教員育成の環境を整える。	①全教職員の服務に対する意識が高まったか。 ②全教職員の協力体制に対する意識が高まったか。	①計画的な研修の他に、規範意識を高めるための指示・伝達を適宜実施している。 ②教職員が、お互いに声をかけあう様子が見られる。	A	生徒を第一に考え業務を行う。教職員数が少ない部分は、協力体制や分担等を工夫し、互いに声をかけあいやすい風通しのよい雰囲気を醸成する。	・意識改革とICT活用の進展は素晴らしいです。今後は業務の選別を大胆に進め、持続可能な勤務体制の構築を期待しています。・今後も当たり前のように教職員の協力体制を各種検討、また声をかけやすい雰囲気を続けて頂きたい。・先生方が業務に協力して取り組む環境が整っていることは生徒たちにとって大変幸せな
		・やりがいのある働きやすい職場への環境改善	①業務改善策の提案と実施及び検証を行う。 ②勤務時間外在校時間の縮減及び、業務の精選を行う。	①業務改善策が実施されたか。 ②学校評価教職員アンケート「植水中学校は働きがいがあり、働きやすい職場か」の問いに対して、肯定的な意見が前年度より増加したか。	①業務改善策を実施することができた。教員数が少ないため、1人あたりが担当する業務量は多いが、前年度より効率的な運用ができるよう、計画的かつ取組状況を把握しながら改善策を講じている。 ②肯定的な回答の割合は94%で前年度より6%下がった。			

